桐

大東文化学園教職員組合連合機関紙
2020年8月31日発行　第 1144号

大東文化学園教職員組合連合
〒175－8571　板橋区高島平1－9－1
tel/fax. 03－3935－9505

この号の内容

緊急要求書回答
アンケート結果

Facebook
大東文化学園
教職員組合連合

大学組合ホームページ
http://www.boreas.dti.ne.jp/daito-un/

コロナウィルス流行に伴う諸問題に関する緊急要求書回答

桐 1143 号に掲載した８月４日提出の緊急要求書の回答を８月 24 日（月）に受け取りました。大学運営に関わることであるため、学長名での回答となっています。

後期授業の開始を控え、緊急かつ切実な問題であることをふまえ、回答の全文を掲載いたします。

2020 年 8 月 24 日

大東文化学園教職員組合連合
執行委員長　大杉　由香　殿

大東文化大学
学長　内藤　二郎

コロナウィルス流行に伴う諸問題に関する緊急要求書に対する回答について貴組合連合より提示された標記要求書について回答します。

１．コロナ禍下における本学の教育指針と教育支援の方法を明確に提示すること

現在行われているオンライン授業に関しても、従来の個別教員に任せるだけでなく、大学として支援を積極的に行うことを求める。具体的には他大学にみられるオンライン授業推進委員会の設置、授業準備支援金の支給（非常勤講師向け）を求める。

回答：後期授業の開始に向け、非常勤講師を含むすべての教員を対象とする FD 研修会を 9 月初旬に実施いたします。前期授業の総括に基づき、後期に向けた改善事項、課題の確認をおこなうとともに、効果的なオンライン授業の取り組み事例を紹介し、また各教員からのさまざまな質問にも答える予定です。
一方で、オンライン授業のノウハウや効果的な手法は、学部学科ごとの教育内容の特性による部分もあるため、引き続き各学部学科においても教員間のサポート体制を継続していただくことが有効であると考えます。

２．後期授業の運営方法に関する決定の仕方と周知について改善を求める

(1)「2020(令和２)年度　後期授業方針」を、教授会等で諮らず教職員に事前通知なしに、7 月 27 日に直接ＨＰで公表したことの経緯と理由について説明を求める。
(2) 上記により、教職員に多大な混乱を招いたことへの反省を求める。
(3) 今後、運営方法を決定する際には必ず教授会等で諮ることを求める。

回答：本件について、大学執行部では、後期授業方針のホームページ公表に先駆けて、7 月 17 日付で各学部長に対し後期授業方針に関する文書を発信し、教員への周知をお願いしています。その上で、はじめに「2020（令和 2）年度後期授業について」（7 月 20 日付）として後期授業の大まかな方向性をホームページに公表し、この間に学部長を通じて寄せられた各教員からの質問や学生、保護者からの問い合わせ等を踏まえるかたちで、「2020（令和 2）年度　後期授業方針について（追加）」（7 月 27 日付）として追加の情報発信を行いました。
コロナ禍の状況は日々変化しており、授業方針にかぎらず判断のタイミングの見極めは非常に難しい状況にあります。教授会への報告や承認を前提として物事を決めていくことは、現実的に困難であり、そのかわりに大学執行部は、常に学部長との連携（具体的にはメーリングリストを通じての意思疎通）により適宜情報報告を行っています。

３．コロナ禍下における具体的な対面授業実施指針を打ち出すこと

(1) 安全衛生委員会の開催を求め、かつ関係部署等を通して幅広い教職員に協力を呼びかけること。

(2) 対面授業実施指針（警戒レベルに合わせた具体的な指針・内容を含む）を大学として可及的速やかに出すべきである。

(3) 同時にオンライン授業の成果・課題を教員の個別体験から大学全体の体験へと組織化し、内部質保証体制を行うことを求める。

回答：安全衛生委員会に関しては、開催の方向で調整いたします。また、対面授業の実施指針に関しては、8 月 6 日付文書にて対面授業とオンライン授業の基本的な考え方や具体的な判断基準、留意事項等を示しております。
今回のオンライン授業の成果・課題の共有は極めて重要であると認識しております。今回の経験を教員個々のレベルにとどめず大学全体の財産として今後の教育活動に活かせるように検討していきたいと思います。

４．Wi-Fi 環境を至急整備し、かつオンデマンド型授業への支援も行うこと

(1) 一部でも対面授業実施に移行した場合、Wi-Fi 需要は増大するので、早急に大幅な Wi-Fi 環境整備を求める。また、対面授業のために研究室のない校舎に出校した教員が、その校舎でリアル配信型講義を実施するための部屋（教室）、ならびにインターネット環境を整備すること。

(2) 対面授業の一部再開は、同時にオンデマンド授業対応の準備が不可欠となる。このため教員負担もより大きくなるので、対面型講義の記録のための、ビデオや三脚、会議用マイクなどの貸し出しなど教員に対する大学としての支援を求める。

回答：現在、板橋と東松山の両キャンパスにおいて、後期授業に向けた Wi-Fi 環境の増強計画を進めております。その他の取り扱いについては、どのような支援が可能か検討いたします。

５．教職員の中で感染者が出た場合の指針と対策を明らかにすること

(1) コロナ感染者が学生・教職員に確認された場合の大学の具体的対応を明確にすること

(2) コロナ感染した場合に大学側は病欠（欠勤）扱いとし、かつ年次有給休暇を利用するように求めている。コロナ感染者については病欠扱いとせず、治療・休養のために有休を使わせるようなことがないように求め、明らかに通勤途上や授業や業務による感染である場合は、労災の適用及びそれ以外の手当も要求する。

(3) 対面授業再開による「リスク・コスト」はどちらが大きいかを比較検討したのか。検討したのであれば、具体的なプロセスを明らかにすると同時に、可及的速やかに教職員に広く意見を求めるべきである。

回答：教職員や学生の感染確認に関するフローは、すでに DB ポータル及び学内メール等で周知しているところですが、後期授業の開始にあたり、再度周知を図り徹底いたします。
また、職員がコロナ感染した場合の勤務取り扱いにつきましては、現状のコロナ禍を勘案し、安全衛生委員会、看護師等の意見を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策本部で検討いたします。
リスクの数値化は非常に難しいところです。リスクを抑えるためには、全面遠隔授業＋入構禁止が最も有効かも分かりません。しかし、学生の思いに応え、教育効果をより高めるためにも、対面授業の可能性を探ることは重要であり、教育機関としての大学の責務であると考え議論を続けてきました。
次に対面授業再開のリスクについて、専門家の意見や各事務部局、学部長を通じて得た各教員の意見や疑問などを勘案しつつ、執行部で数度にわたって検討を重ねました。感染症対策にかかる費用等についても検討し、対面式授業の一部導入は可能と判断しました。
しかしそれでも、万全の感染防止対策をとったうえで行う対面授業においても感染者が出ないという保証はありません。そのため、対面式が可能となった授業でも最終的な授業実施方法の判断は各教員の任意としています。学生についても同様に、登校を強制するものではありません。感染リスクに不安がある学生は登校せずに授業を受けられる措置（すべての授業でオンデマンドが準備されます）も講じられています。
以上が今回の決定に至ったプロセスです。今後も各学部学科、各事務部局からの意見があればお寄せいただきたいと思います。また当然のことですが、状況の大きな変化には逐次対応していく予定です。

以　上

後期もオンライン授業を継続しつつ対面式を取り入れるならば、徹底した感染防止対策と通信環境の大幅な拡充は必須です。回答からは、先の見通しが持てない中で大学執行部および感染症対策本部が努力している様子はうかがえるものの、現状のままでは学生と教職員が安心して後期授業開始を迎えられるとは言い難いところです。

大学教職員組合としては、次ページ以降掲載のアンケート結果で明らかとなったみなさんの声を大学執行部・学園に伝えるとともに、さらに具体的な感染リスクへの対応、学生と教員へのオンライン環境整備のための補助（経済的な援助・支給を含む）等について、引き続き要求していく所存です。

ご要望やお困りのことなどがあればお知らせください。　✉ daito-un@boreas.dti.ne.jp

オンライン授業に伴う教育・労働環境の変化に関するアンケート結果

アンケートは８月 14 日から 26 日の期間にインターネットによる回答方式で行い、４３件の回答が寄せられました。緊急のアンケート実施であったこと、しかも組合書記局がメールアドレスを把握している限りの組合員への呼びかけであったことを考慮すれば多い回答数であり、この問題への関心の高さと要求の切実さが示されました。

アンケートの回答を見ると、多くの教員が厳しい条件の中、よりよい授業づくりのために最大限の努力を継続してきたことがわかります。学生の通信環境にも配慮しながら、いかに意欲的な学びを引き出すかという様々な工夫も紹介していただきました。

一方で、充実したオンライン授業を実施するための労力は通常授業の比ではなく、健康を害するレベルまで達している実態も明らかとなりました。オンライン授業実施にあたっての大学からのサポートが不十分であったことへの不満、環境整備のための経済的な自己負担軽減の要望、後期の授業形態への不安などの声も多く挙がっています。

オンライン授業の課題が浮き彫りになるアンケート結果ではありましたが、オンラインならではの利点も見逃せません。成果と課題を共有し、今後の教育活動に発展させていくことが求められます。

この難局を個々の教員の努力や過重労働に頼って乗り切るのではなく、学生の声に耳を傾けながら、組織的に対応していくことが必要です。大学執行部には、この度のアンケート結果を真摯に受け止め、今後の運営方針に生かしていくことを求めます。

年齢を教えてください　41 件の回答

20 代	0
30 代	5
40 代	7
50 代	17
60 代以上	12

＜オンライン授業について＞

（1）オンライン授業の実施に当たり、以下の項目について工夫されている点をご教示ください。

※複数回答可　41 件の回答

ア）時間配分	22
イ）学生の集中力を継続させるための工夫	25
ウ）学修状況の把握手段、フォロー方法	27
エ）実習的な要素が不足しがちな点について、その補完方法	14
オ）課題、教材、動画コンテンツ、それらの提示方法	39
カ）その他	4

差し支えなければ学部・学科を教えてください

37 件の回答

スポーツ・健康科学部	6
スポーツ・健康科学部　スポーツ科学科	4
スポーツ・健康科学部　健康科学科	3
スポーツ・健康科学部　看護学科	2
国際文化学科	1
国際関係学部	1
外国語学部	1
外国語学部日本語学科	2
文学部	1
文学部　教育学科	2
文学部・日本文学科	1
法学部法律学科	1
法学部政治学科	2
環境創造	1
社会学部	2
経営学部	2
経済学部	2
経済学部・現代経済学科	1

その他の記述　　８件の回答

- 学生にとって課題が過重負荷にならないように、文字数の指示や課題を回答し易い教授工夫に心掛けました。
- 特になし
- ネット環境や体調（眼精疲労等）の確認
- 接続や通信がうまくいかない場合の選択肢準備
- とくに工夫していることはない。
- 講義で修得してほしいポイントを絞る
- 演習発表における質の確保
- 学生との応答関係を保つこと(フィードバックを必ず行う)

（2）本学でのオンライン授業のタイプは以下 3 つとなります。授業のタイプごとに、工夫されている点をご教示ください。また、学生の反応やその対処について、お気づきの点をご教授ください。

ア）オンライン授業 A 講義資料・課題提示による遠隔授業（manaba を利用）　29 件の回答

- 課題に対して可能な限りコメントを添えた。　・講義資料と学習のポイントを郵送した。
- 実施無し　・試行せず　・このタイプの講義はない.
- これだけで授業したとは言えないと思います
- オリジナルの講義資料作成。映像資料の案内(URL)。簡便な課題
- 課題の締め切り時刻を柔軟にする。
- 授業講義資料だけをマナバにあげて課題を提示する方法は、私自身非常に抵抗がありましたので（1 教科、学年全体を複数人の教員が 30 名ほどづつ分けて分担している授業のみ、ア)の形態でした）、マナバのコースニュースに、Zoom の URL を示し、通常の授業時間に Zoom 入室を促し、本時間の授業の主旨・目的や前回の課題の話、新型コロナウイルスの状況などを話した上(15 分前後）、パワーポイントに音入れ、映像を入れ mp4 変換した授業資料(30 分～50 分）の URL（作成した資料をユーチューブに上げました）をチャットで配布し、wifi 環境の悪い学生は、退室してもらいオンデマンド資料を閲覧して貰いました。その後、授業再開し、授業のまとめ、課題の説明、課題の URL 配布（forms 活用）、【課題は、マナバのコンテンツに forms の URL も含めて示しました。また、オンデマンド教材で作成したパワーポイント資料をコンテンツ上で配布しました。】、自分の学籍番号をチャットで送付して貰って退出という形態を基本的には取りました。尚、私も授業学生に遠隔授業全体についてのでアンケートを取りましたので、何点か学生の回答を記載致します。
  ①ほぼすべての授業で課題が出るため、毎日毎日課題をやることになり大変でした。 講義資料を配布する授業で、解説が書いてある授業はいいのですが、資料だけの授業はいまいち内容を理解できない部分が出てきたので困りました。
  ②課題提出のやり方、期限の確認がわからなかった。
  ③資料だけ配布されて自分で考えてレポートを作成することが一番難しかった。
  ④自分が課題をやっていて、質問をしたくてもすぐに聞くことができなかったり、初めのころはインターネットが苦手で、課題の資料の見方などがわからなかった。
  などなどです。
- イ）の場合も含めて、manaba に講義資料（パワーポイント）をあげる場合は、音声入りファイルを作成している。音声を入れることで、理解が促進されるようである。また、遠隔で孤立感を感じがちな学生にとって、教師が近くにいることを意識づけできる効果があるようである。まるでウェビナーに参加しているようだし、あとで何度も聴き返して復習もできるようで、学生の評判は良かった。ただ、音声入れが思った以上に時間がかかるので、教師にとってはちょっと負担になるという難点がある。
- 学生からのコメント・質問を受講学生全員と共有している。
- リマインドメールを設定するため配信時間の配慮をした。時間割上の授業時間帯や早朝・遅い時間帯など配信時間帯に拝領した。
- わかりやすい資料作り、参考書に沿った課題提示
- 学生の講義資料の理解度を高めるため、できるだけ詳細な解説や説明を入れるようにした。
- 課題は量を少なくしている。
- 真剣な回答が多く充実した、やり取りが可能になっている。
- 関連の最新の新聞記事などを添付して講義資料と現状をリンクさせる工夫をした。課題の中に、自身の経験や現状を書かせる項目を作り、自分事に置き換える工夫をした。
- 最初は色々と課題を工夫して語学の授業などは学生のレベル別に出していたのですが、学生にとっては負担過多になっている可能性があることが、レポートを提出していない学生との面談でわかりました。その後は、課題の量を加減することにしました。
- ネットの情報では書けない課題にするため、資料の要約などをさせている。ついつい量が多くなるので、気をつける必要がある。複雑な質問の場合、学生からの問い合わせにより、本来質問を提示後に修正したほうがいい場合でも、すでに提出した学生に不公平になるので、全面的には修正出来ない。
- 50 名、130 名、150 名程度の従来講義型（授業中、できるだけ指名しましたが）として行っていた授業は、A4（1600 字）を 3～4 枚の講義資料（講義の原稿。重要部分に下線、復習を求める部分に吹き出しなど）と、1 問 1 点で 15～25 問の毎回の小テスト 1 を用意しました。30 名程度の少人数クラスでは、従来最初の 30 分が小テスト（毎回）と小テストの解説、次回小テスト内容に関わる授業を行っていたので、ネット接続も考え最初の 45 分を小テストとして従来同様のテスト時刻を確保しました。小テストは 2～3 種類で合計 80 問程度を毎回用意しました。この授業の講義資料は A4（1600 字）を 2 枚程度にしました。

- 1 年生のゼミを行ったが、随時 Zoom を併用して行うことで、学生の進捗程度が確認でき、ある程度適切な支援ができた。
- コンテンツの分かり易さ。課題が、無理のないものであるかどうか。
- 通常なら口頭で説明する部分の文章化
- 資料を見ないと解答できないような練習問題を設け、小テストから提出させている。
- 所有する機器や環境が同一でないことへの配慮
- 読むだけでも分かりやすいよう、授業資料をかなり作り替えた。毎回課題を出して参加度・理解度を確認した。
- 課題を出すだけで応答がないという不満をよく聞いた
- 学生に指定文献(教科書)を読ませた後、manaba 経由で課題に答えさせた。課題は文献をしっかり読まないと答えられないように工夫した。課題の提出率は総じて良かったが、応用力がついたかは疑問。
- manaba 使用せず。DB ポータルと GoogleDrive を使用。毎回 Google フォームを使った小テストを実施し、その際、質問を受け付けた。質問のある学生は 1 割に満たない状況。普段の授業に比べれば、質問はあったと思われる。しかし、一方で学生が本当にこちらの提示した課題をこなしているのか、不安である。

イ）オンライン授業 B オンデマンド型遠隔授業（manaba を利用）　25 件の回答

- Zoom に入ってくることができない学生を対象に YouTube 上に限定公開で講義内容をアップした。
- 毎回、講義前に前回出した課題のフィードバックを実施し、理解度が低かった点については、再度復習内容を含めた講義を行った
- 学生の学習状況と特定の時間への集中を避けることを目的に基本このスタイルにしました。
- 講義はすべてオンデマンドで前期は行った。動画の配信と、併せてテキストのスキャンと会話調に直した文字によるレジュメも付けており、学生が好きな方式で内容を把握し、課題に取り組めるように工夫した。授業に関する学生の評価は概ね良好だったが、私自身があまりにも頑張りすぎて、途中、寝る暇がなくなってしまったので、後期からは資料添付と ZOOM で口頭で解説する双方向型に変更したいと考え、学生にアンケートで可否を聞いた。が、学生からは ZOOM 型は他の授業でさんざんやっているが、ほとんどが充実した内容ではないから嫌だと却下された。逆に、先生が大変だということは受けていてわかったが、できればこのままで頑張ってほしいと激励された。というか、結局 ZOOM 型を認めてもらえなかったので、後期の授業準備の大変さを思い、今から憂鬱である。
- パワーポイントの枚数など、一回分の量が多くなりすぎないようにする。manaba だけを使っていますが、時間内に提出された課題に対してリアルタイムでのコメント対応、再提出要求などによって、映像と音声は使いませんがリアルタイムという点で「同時双方向型」に近づけている。
- 授業動画閲覧の状況が徐々に遅くなっていくため、掲示板等を利用し、資料動画の閲覧を再三指示をだしている。
- ア)に示したとおりです。学生の授業環境が悪い場合、あるいは自身が確認したい点がある場合は、何回でも見直すことができますので、学生にとっては、授業資料のみの配布は少し乱暴ではないかと感じています。
  学生の意見
  ①動画資料などで様々な技の動きを色々な角度から見られること。
  ②自分のペースで何回でも見られる事
  ③資料を見直すことができる。
  ④実技授業で最後のほうの授業になると最初に何をやったか思い出せないことがあるけどオンライン授業だと見返せる所だと思います。
  ⑤自分の日本語がまだ足りなくて対面授業の時は理解できなくて通り過ぎる時があるけどオンライン授業の時は映像を見る時また回してずっと見ることができるから理解がよくできます。
  ⑥レポートを書く際に、授業内容の理解をしてないとうまく書けないので、受けっぱなしにならなかったこと。授業ごとに内容の理解に努めたので、インプットで終わらずアウトプットできたこと。 などなどです。
- PowerPoint のナレーション機能を活用し教材作成を行った。なるべく棒読み調にならないように注意し、授業に関連する余談やたとえ話を付け加え、興味を持って最後まで視聴してもらえるような工夫をした。
- ほとんど活用していません　・実施していない　・このタイプの授業は行わなかった
- 音声動画のサイズをできるだけ小さくして学生にパケット通信料等できるだけ負担をかけないようにした。
- 動画付きパワーポイントの充実
- はじめはこの方法でやっていました。字幕を入れたり編輯をしっかりし，受講生の環境を考えて，クリアーな映像だけど重いファイルと画質は落ちるが軽いタイプの二種類を準備しました。 編輯をしていたので，わかりやすく，見やすかったとのことです。
- 動画やレスポンを織り交ぜて単調にならないようにしている。
- 所有する機器や環境が同一でないことへの配慮

- パワーポイントに音声を入れて動画で配信．学生の通信環境を考慮し，動画を圧縮して配信．加えて，PDF も同時に配信．課題は毎回出している．課題に対しては，少ないながらも必ずフィードバックを行っている．学生のアンケート結果では，お互い顔が見えないオンライン講義なので，フィードバックは非常に助かるとの声多数．ただし，教員はかなり大変．
- 確認テスト（小テスト機能使用）を毎回行い、学生の理解度が確認できるようにした。偶数回の授業で、Zoom で質問できる時間を設定し、学生対応をした。学生は、授業内容や成績評価について不明な点を、講師に直接確認でき安心したようです。
- 前回の学習シートの記述から、振り返りを最初にいれ、本時とのつながりをつけている。
- 映像等視聴覚資料へのアクセスを作った。
- 自分は双方向になるように努力した
- Zoom で一人会議を開催し、PowerPoint を画面共有しながら解説した録画を manaba・Google Drive を使ってオンデマンド配信した。また、復習用の課題を manaba の小テスト(自動採点式)部分に掲載し、正答率の低かった問題を中心に授業動画のなかで解説するようにした。復習用課題とは別に、学期末に manaba を使った授業内課題(期末試験の代わり)を回答させた。配信資料(とくに復習用課題)はおおむね好評だった。
- A との違いが理解できず。A と同様です。
- 配信する教材の作成に多大な時間がかかった。ウ)と交えながら開講することでメリハリをつけた
- 授業資料を何度も見返すことができるので、自習に活用できているようだった。

ウ）オンライン授業 C 同時双方向型遠隔授業
（manaba とともに Zoom または Microsoft Teams を利用）　28 件の回答

- Zoom ブレイクアウトルームやチャットを活用して主体的な学びの一助とした。
- Zoom での講義は、通信環境によりうまく参加できない学生が毎回いたので、一部双方向型として、メインの講義はオンデマンドとした。
- 顔出しをする学生が非常に少ないので、最初は戸惑いましたが、仕方ないと諦めました。また学生の Wi−Fi 状況を考えて、出席は任意にしています。
- 演習科目の一部はこのスタイルにしました。学生の持つデバイスによってはグループメンバー全員の顔がうつらずやりにくさはありましたが、やってよかったです。
- 学生と教員、学生同士のコミュニケーション。manaba での課題との併用の仕方。
- ア)に示したとおりですが、この形態だけでも問題が残ると思います。　少しでも学生の状況を理解するためには、同時双方向型の遠隔授業は必然だと思います。この場合、学生の受講環境に不備、あるいは教員サイドの情報発信環境に不備がある場合に、お互いに授業が進まなくなりますので、その場合でも、学生にとって大きな不利益が生じないような方法を合わせ技で運用しなければならないと感じています。
  学生の意見
  ①通信状況や端末の仕様によって、受講が不便であることもあった。先生との対話も、人によってラグがあると情報交換が難しく感じた。
  ②電波や機器の状態によって、ズームに入れなかったりすること。
  ③通信状況が悪かったり、サーバーがダウンしてしまった時に授業に入れなかったこと。
  ④パソコンの調子が悪い時に、音が聞きづらかったことがあったこと。パソコンの充電が急に減ってしまって大事なところを聞き逃したこと。
  ⑤ネットワークが不安定だと、ズームが困りました。
  ⑥オンラインで受講する際に、ポケット Wi-Fi の通信制限などがきてしまい、何度か講義の ZOOM に入れなかったことが、私のミスだと思いました。 などなど。
- Zoom を使った。ほぼ対面授業と同じペースで進めることができたので、今後も有効に使えると思う。ブレイクアウトセッションも、教室のように他のグループの声が入ってくるわけではなく、密にディスカッションとワークが展開できたようである。
- 主にコミュニケーション論の演習で Zoom を利用した。学修者の端末が PC なのか、タブレットなのか、スマホなのか分からないが、小さな画面だと言語的コミュニケーションだけでは伝わりにくいと感じ、ジェスチャーや表情など非言語的コミュニケーションを対面授業の時よりも多用し、オーバーすぎるようなリアクションをするなどテンションをあげ気味に工夫をした。授業のはじめにはアイスブレイクを導入し、学修者が話やすい学習環境を整える工夫を行った。1 コマこなすとげんなりと疲労度を増した。
- わかりやすい説明、チャットなどによる質問への対応
- ライブ講義の回数はあまり多くなかったが、できるだけ顔出しをお願いして教員、学生どのような人が受講しているのかわかるようにした。
- 学生を積極的に発言させるなどを、促す授業の進行
- 顔出しを原則、行っていないので受講生の反応が把握できない。

- 定期的に、質問に答えてもらう工夫をした。動画を流して、視覚的に理解を深める工夫をした。また、動画を入れることにより、集中力を保つことにも有効であった。Zoom で学生からのプレゼンテーションを行った。
- 5 名のゼミのみ　なるべく相互の会話やゲームを多くする
- 試しに実施したところ，圧倒的にこちらが良いとの声だったので，Zoom を使って授業をしました。発音などその場で矯正できるので，良かったですし，学生たちも満足していたようです。
- ZOOM のブレイクアウト機能を使ってグループ討論を活発に行う。
- ゼミなど少人数のクラスでは Zoom を併用して学生に発表をしてもらっています。オンデマンド型のみでは学生の方も教員とのコミュニケーションをとる機会がなく、かわいそうに感じますので、前期で Zoom を使っていなかった授業でも、後期は Zoom を併用して行きたいと考えています。
- 学生の報告が主体だが、コロナ下で図書館利用は無理させられないため、サイニーの論文を利用している。テーマによっては論文が少ないので、こちらで入手して、スキャンすることを考えている。通信容量でビデオ通話に対応できない学生がいる。
- 専門演習は Zoom で行いました。報告者には毎回ゼミの 2 日以上前にレジュメを提出させ、それをポータルで流しました。また、報告については毎回レポートを課し、次回までにそれを添削しました。そのほか、ゼミの最初の 20 分は様々な小テストを用意し、ゼミの開始時に一斉に受けさせました。
- ゼミで使用．当初は不慣れなところもあったが，中盤以降は安定して利用．ただし，個別にインタラクティブな指導をするようなケースでは，やはりどうしてもオンラインでは難しい．
- ゼミでは、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使用して、グループワーク、学生面談、個別相談を行うことで、効率的に授業運営ができた。
- 通信環境により Zoom に参加できない学生へのフォロー（発表の授業は録音音声の提出を可にする、授業内容を manaba で把握できるようにする、など）
- 所有する機器や環境が同一でないことへの配慮、ネットが途切れた場合にその部分の資料などを送付する必要があること
- 演習授業において、教員と学生、学生同士、互いに少しでも知り合う機会となればと考え、身の回りのことや気になったニュースなどについて語り合う時間を設けた。
- 通信環境の悪化によって、参加が途切れたなどの問題があったようだ
- GoogleMeet を使用。4 学年分の演習授業で実施。学生の通信環境についてアンケートしたあとに、その実態に沿うように実施したが、学生によっては落ちてしまう場合が多い。通信容量の抑制のため、ミュート等で映像も見れずにやっているが、問いかけても反応がない場合があり、本当に席の前に座ってやっているか不安。学生によっては出先で参加した者もあり、本当に学習環境にあるのか大いに問題と思っている。A や B よりリアルタイムな意思の疎通は容易であろうと思うが、グループ実習などやりにくく、できることが限定されている。
- 学生は黙っているので、呼名するようにした。「〇〇さん聞こえますかー」のように
- 授業資料や課題を事前に提示することで反転授業ができた。

（3）オンライン授業において、お困りの点をご記入ください。お困りの点について既に解決されている場合は、その対応方法などもご教示ください。　32 件の回答

- Zoom ではデータダイエットを意図して顔出しを必須としなかったが、学生のコメントに「（他講義で必須としている場合と比較して）緊張感が下がった」というものがあった。
- Zoom では顔出しをしないので、本当に真面目に聞いているかどうか判らないといった問題があります。反応・表情が見えないので、何処まで理解されているか分からず、戸惑うことが少なくありません。また準備に相当時間をかけましたが、学生の方はピンと来ていない様子で、ろくにコンテンツを読まないで課題に取り組んでいるケースもありました。さらに提出物もワードでやることが多かったせいでしょうか、数人の学生が全く同じレポートを出すといった事態（不正行為）が起き、大変困惑しました。彼等には不正行為であると manaba で連絡しましたが、学生側から連絡を寄こさなかったケースも多々ありました。
- 自宅で仕事の環境を整えるのに相当な金額を費やした。 他大学ではオンライン授業に対する特別対策室が設けられ（メンバー各学科、事務職員、情報センター）、学長の特命として学生と教員のサポートを行っていた。また、対策室で統一した方針を決めて周知したため大学としての方針と方法が明確で混乱が少なかったと聞いた。本学はいったい？
- 著作権上の問題から AV 資料が十分に活用できない。URL を貼って鑑賞教材とした。 ビデオがオフの学生が多く顔がわからない。学生の反応がわかりにくい。反応ボタンの使用を求めた。 数時間かけて作成したオリジナルの講義資料の課題を授業開始後 10 分で提出されると、気持ちが沈む。 manaba 掲示板に質問やフィードバックなどのスレッドを立てたにも関わらず、ほとんど反応がなかった。

- コロナ禍でいきなり組教員にオンライン授業をゆだねられ、手弁当で研修や YouTube などから必死に Zoom の使い方や教材作成の工夫をセルフで学習した。
- 本当は対面授業にしたかったが、大学からは、自力で授業風景を撮影して manaba にアップしろとの要請があり、自分の対面授業を自分で撮影するような技術も器具も持ち合わせていないので断念した。私の考えでは、そのような対面授業を行うためには、最低でも三脚とハンディカムが必要になると思われるが、それらを持っていないので、自腹で購入するというのは、選択肢としてあり得ないと感じた。大学は、いったいどうやって、対面授業で各教員に動画撮影せよと言っているのか。まさか、スマホで撮影できるとは思っていないだろうが。それでなくても、オンデマンド授業には自腹出費が嵩んだ。撮影用の照明器具と暗幕を研究費で申請したら却下された。こちらだって、自分の研究費でそのような授業具を購入したくはない。が、自腹はもっと困る。オンデマンドを推奨するのであれば、準備のためにかかる金額を設備費として、一時金のようなかたちで返してほしい。非常勤の先生方に連絡した折にも、同様の主張をかなり厳しく指摘されたが、そんなの私に言われても、と苦痛を感じた。学生になぜ、ZOOM をそんなに嫌うのか尋ねたところ、ZOOM 型授業は、おそらく教員のみが通信環境が安定しているみたいだが、学生側は 1 時間たたないうちに、音声が途切れるようになるので、教員はわかっていないのだろうけど、学生はあまり聞いていないとのことだった。逆に、私が行っているオンデマンド型だと、そういうことは起こらないから、ストレスが少ないと言われた。
- 学生には PC を使ってほしいのだが、タブレットやスマホだけで受講し続ける学生がある。
- 受講環境が整っていない学生への対処が難しい。
- テストについて、公平性を保つことができない。
- ①出席状況の把握が難しく、respon と併用して実施している。②学生の反応がつかみにくい。③顔を出さない学生の実態がわからない。
- スポーツ科学科では、学科の特性上、実技や演習系の講義が多数ある。 すべてが Online となり、実技の講義でも資料を見てレポート提出という講義が大多数になってしまい、学生にとっては納得のいかないものになってしまったのではないかと感じている。
- Zoom などで学生の参加を強制できない点、パケットやパソコンの問題と言われると反論できない。
- 100 人以上の授業では、課題の確認に多くの時間がかかった。何か良い方法があれば教授いただきたい。FD 研修などで。Zoom の場合、学生のネット環境に左右されるため、学生のネット環境への支援をひきつづき大学側にお願いしたい。
- 機械音痴なので何度も情報センターのお世話になりました
- 機材を自分で調達しないといけないところ。専任は研究費があるが，使用できないのはなかなかしんどい。非常勤の先生はなおのこと大変なのではないかと思います。
- アクセスや接続、通信の質の問題が度々起きた。
- オンデマンド動画の準備に時間がかかり、疲弊しきっている。
- 他の受講生の回答を明らかにうつしている学生がいる。不可にしたが、そういうことに注意しないといけないのがわずらわしい。
- 目の疲れです。学生からブルーライトカット率の高い眼鏡を紹介されたので、学生も目の疲れをためていると思います。
- 上でも書いたように，個別に指導する場合には，どうしてもオンラインでは困難．また，対面講義では，リアルタイムで質問を受けられるが，オンラインでは質問は来ても事後的になるので，学生はどうしてもわからないまま進めてしまうことが多いようである．
- 大学の ZOOM が使えなく、個人負担で ZOOM と契約した。
- 動画作成に時間がとられた。
- 学生の顔が見えない。伝わっているかどうか、把握しづらい。対応としては、課題と、コメントのやり取り。
- 学生の参加度（出席率）の低さ
- 持ち込み不可の試験ができないため、語学の授業で、単語・熟語を覚えているかをはかることが難しい。グループワークをして PowerPoint で資料を作り発表する形態の授業で、Zoom を使って実施しているが、「通信環境の都合で Zoom ができない」という学生も多い。また、スマホしか持っておらず PowerPoint で資料を作る課題ができない学生も一定数いる。どう課題を出して評価すべきか悩んでいる。
- 学生個々への対応に相当な時間を要すること（ネット環境の不具合の理由による課題の再提示、資料の再提示、課題の提出期限の延長、再提出許可）
- 目と肩が痛くなる。やや鬱っぽくなる。
- st メールで学生に連絡を入れてもリスポンスが悪い。(返信があっても 2 日以上かかることがざらにある。) 個人アカウントに転送をかけ、最低でも 1 日 1 回はチェックするよう、全学的に指導を徹底してほしい。
- 前項に同じ。

・普段の授業より、できる子と出来ない子の格差が広がっていると感じた（テストの結果から）。授業をしていても寝てしまう子やゲームに夢中な子で授業に参加しているのかどうか分からない子は一定数いるが、その割合が高まっていると感じる。社会にでれば、要領の良い人が勝つのは確かだが、学生時代からそのような要領の良さばかりを身に付けても仕方がないと思うが、オンライン授業はそのようなことを助長しているように感じてならない。
・学生の反応が伝わりにくく、早く進みすぎる。90 分より短くならないようする事との兼ね合いが難しく、修学の面からはかえって非効率に感じる。
・やはり、実技の授業は非常に難しいと思いました。知識のみを提供する場合は、遠隔授業の工夫で補える部分はかなりあると思いますが、実技・実験などは対面での授業の必要性を改めて感じました。

（4）遠隔授業の長所、メリットと感じられる点（教員、学生どちらの視点からでも結構です）

38 件の回答

・通学時間の短縮、感染リスクの低減、諸事情によりリアルタイムで参加できない学生へのフォロー可、など
・オンデマンド型では、聞き逃した点を見返したり、復習を行うことが出来る
・通勤時間がないので、少し睡眠時間が増えました。また疲れたらすぐに休養できるので体調がよくなりました。それから学生たちは定期代がかからずに済んで助かっているとの声もあります。細かく対応して貰えて嬉しいという声もありますね。
・私の科目を受講した学生の感想からは講義部分はオンデマンドだったことで自分のペースに合わせて繰り返し学習できることが良かったとあった。
・大学に通う時間が節約できる。
・学生に聞けばわかると思うが、コロナ感染が怖いという理由以外で、学生は遠隔授業を評価していない。そのことはわかっているが、やはり秋から冬にかけて、コロナ感染が拡大すると考えると、基礎疾患をもつ教員としては、健康のため、遠隔授業を認めてもらえることは、ありがたいと感じる。
・manaba でのディスカッションは、対面や TV 会議システムと違い、発言の声の大きさや発話態度に影響されずに、発言の中身だけを論じることができる点がよい。
・オンデマンド授業型の場合、資料動画を繰り返し閲覧可能であることから、復習などを含めて、学生によっては学習効果が高い
・遠隔授業のメリットは、今後の大学教育にかなり取り入れられると思います。
①時間的制約を超えられる(柔軟なカリキュラムの編成が可能）。
②講義内容や目的によっては、受講生の数の制限は入らない。（①と同じ）
③場合によっては、大学間を超えた授業を提供することも可能（大学間連携の強化）
④以上によってコストの削減により授業料を減ずることも可能になる。

学生の意見(既述意見以外）
①通学の時間がかからないのでその分時間に少し余裕ができる。
②学校に行く交通費がかからない。学校に行かなくても授業が受けられる。
③よりリラックスした状態で授業を受けられる。
④1 人で集中してできる。マンツーマンみたいで授業に集中しやすい。
⑤自主的な学びができる。
⑥自分の空いている時間にできるし家の時間が増えるので自分の時間を有意義に使えることに気づけました。
⑦自分の時間が確保できる。バイトと授業の両立が前よりも出来るようになった。 などなど。

・勉強する学生にとっては集中して自分のペースでできるので成果が出ていると思う。また、対面では授業に来たがらないのに遠隔では積極的に参加している学生もいた。
・資料の公開期間を自由に設定できるので、好きな時間に受講できる。
・遠隔授業の方が良いという学生もいる。自分のペースである程度自律的に学修できる学生にはよいのであろう。教員の視点からは、往復 4 時間以上の通勤時間が削減され、その分、前期はオンライン授業の方法論について集中的に学び、教材づくりに明け暮れた。
・●新型コロナ暴露のリスク回避が可能　●移動時間の短縮
・移動時間がほとんどない。 どこでも受講できる。 出席率が高い。 自分のペースで受講できる。
・自宅からでも実施できて、仕事先への移動時間がなくなるので、教員としては家庭での子供といる時間が確保出来た。家事の負担も妻と分散出来た。 授業の内容も講義形式であれば、対面もオンラインもさほど違和感を感じなかった… 遠方への出張でも授業を休講にせずに済んだ。つまり遠方でも会議室を借りて授業が出来た。
・限られた条件の中で通常以上のコミニケーションが可能になる場合もある。
・20 人程度の Zoom 授業だと、教師と学生が１対１の関係性で授業が展開でき、予想以上に学生が集中して授業に参画していたことは、双方にとってメリットであったと感じた。

- 少なくとも場所の融通がお互い効くので、感染確率の最小限度化に大変有効であると思います。学生はあまりパソコンを使わないせいか、ICT への親和性が低い人が増えたところ、遠隔授業で ICT 利用の経験が生じ、社会人としての活動に、比較的円滑に入れるかと考えます。
- 対面授業だとグループ討論にはグループ分けや机の移動などにかなり時間がかかるが、ZOOM のブレイクアウトを使えば、瞬時にグループ分けして議論ができる。グループを再編しての議論も容易であり、重宝している。
- 課題を課してその取り組む状況が把握できる点が、対面授業を補完してくれる可能性が大きいと感じています。事前の予習などを manaba で指定して、授業では発表やコミュニケーション活動を中心にするというようなことも可能ではないかと思っています。
- 通常であればただ授業を聞き流している学生もいるので、勉強になっていると思う。
- 毎回の小テストは、対面型回復になっても活かしていく所存です。
- オンライン講義全般に関しては，学生の評判は非常に良い．自分の時間で受講できる，繰り返し見返すことができる，など．
- 学生が遠隔授業をフォローできているのか不明で、メリットは全くないです。
- 課題を manaba で管理することで、学生一人一人へのきめ細かい対応（コメント等）ができる点はよい。
- 公開時間の幅がある授業では、時間割の時間に縛れずに、自分で学習時間を計画できる。
- いつでも取り組みたい時に取り組める。
- ない
- 学生が自分のペースで学習できる。
- 普段質問しない学生が質問するようになったこと
- zoom による対面式の授業において欠席者・遅刻者がほとんどいなくなった。また顔の表示される大きさが同じためか、ディスカッションにおいてすべての学生の声を聞きやすくなった。
- 感染リスクの軽減と対面式でははなしえない授業内容を工夫せざるを得ない
- 受講生へのアンケートのなかで、仮に大学が感染症対策を万全にしたとしても、通学や昼食の際の感染リスクがあるので対面授業は不安(＝この点で遠隔授業は助かる)、との意見があった。
- いつでも、どこからでも授業に参加できる。
- 通勤時間の節約にはなるが、実働時間は増えた
- 教室などとは違い、私語が無く、講義中は集中して受講できる環境であったように見受けられた。
- 学生は交通費がかからない　私は私語や態度を注意するバトルがなくなっていい
- ある意味で場所・時間を気にせず学修できるところでしょうか。

（5）遠隔授業の欠点、デメリットと感じられる点（教員、学生どちらの視点からでも結構です）

38 件の回答

- 対面でないと実現が困難なことがそれなりにある、新入生のメンタル面への影響
- 双方向で顔が見えても、理解度などが把握しにくい。学生の意見をオンタイムで得られない
- 問題のある学生さんを見つけても、顔を知らないものですから、呼び出して、Zoom 面談するといった対応がなかなかできません。特に発達障害等がある学生さんたちはこうした状況についていけず、どんどん取りこぼされていると思います。また manaba の掲示板等を読まないで、メールや LINE で成績や課題のことをやたらに聞いてくる学生も多く、結構対応に悩まされました。
  それから今回はそのようなことはありませんでしたが、PC が壊れたりしたらどうなっていたのだろうと、正直ゾッとしました。
- 演習科目であるため、実際に体験できないことへの不安の声が多かった。
- コミュニケーションがとりにくい。
- 私はもともとアクティブラーニングですべての授業を行わなければならない大学から、最近こちらの大学に着任したので、対面授業のテクニックには比較的自信をもっているが、現在のように対面禁止、ZOOM は不安定で学生が拒否、という状況だと、ほとんど自分の強みが活かされないと感じている。また、通常授業でそのような形態を多くとっていたので、遠隔授業には教材そのものが対応できないため、結果、日々、自転車操業で一から教材を作っており、後期もこの状態が続くと、過労で倒れるんじゃないかと本気で考えている。現在の平均睡眠時間は、3 時間ちょっとである。
- 対面での情報量に比べて、同程度の情報量をやり取りするための手間と時間がかかる。
- オンデマンド型授業の場合、どの程度、学生が内容を把握しているのかの感触がつかみにくい。また、小テストを行っても公平性にかけ、正確な学力や習熟の度合いを測るのが難しい。
- 遠隔授業のデメリットは、実技・実験・実習の補完はできますが、代用にはなかなかならないということかと存じます。また、学生がこの時期社会的基礎力や汎用力を伸ばしていかなくてはならない時期ですから、対面で獲得できる要素が欠落する可能性は高いと思います。学生の意見は、先に示したとおりです。

- 人文系の授業は遠隔でも対面に近い成果は出せると思う。ただ、試験をする場合、「これまでの授業資料を見ないで」といっても遠隔では無理なので、すべて持ち込みという前提で試験の内容を決める必要がある。直に接触していないので、顔と名前を一致させるのに時間がかかる。 やはり、人との直接的接触ではないので、学生の反応は判断しにくい部分がある。飽きさせないように投票などの細工を事前に組んでおく必要がある。
- 演習・実習等の学修形態はなかなか難しい。学修成果の評価についても課題点が多い。詳細なルーブリック評価を作成したが、バラツキが生じた。自宅が職場環境のため勤務時間の制限がなく、終わらないので延々と仕事をする、休日も仕事をしている等、前期はほとんど不慣れなオンライン授業の教材作成と工夫に明け暮れた。教員によっては、資料を一方的に学生に配信しそれで終わりという授業のスタイルをしていると耳にした。ある一定の水準の線引きをしないと学修内容の質の確保が出来ず、学修者の不利益になる。
- ●仲間同士の交流・共有の機会がない、●学習状況が把握しにくい、●学生の様子がつかみにくい、●困っていることなどに対応しにくい
- 準備が通常の講義より手間と時間がかかる。 実技ができない。
- パソコンの前に一人で張り付いて授業をし続けるのはかなりしんどかった… 学生のレポートの確認もかなり辛い スポーツ科学科では、対面の授業が多いので、そこがないのは学科の将来出来にはかなりの痛手。 学生のオンライン環境の整備にはお金が支給されているが、教員にはその配慮がない…私の場合は、Wi-Fi の増設、マイクの購入、カメラの購入、全て自腹でした。
- 直接の、やり取りができない限り本来の授業とはいえない。
- 100 人以上の授業だと、これまで実施していたグループワークが行えず、学生通しでの意見交換による、学びを深める機会が提供しずらかったこと。
- 出会いがない(ノ凸)ｼｸｼｸ…
- 顔が見えないのでやりにくいです。
- 自分の話が済んだ学生が退出したり、そうでなくても、内容に集中しないことがあった。ランダムに指名して話をさせるなどした。zoom はドイツ、台湾、米国などでセキュリティの問題が指摘され、使用を禁止する通達が出たため、個人的に使用を中止した。
- 学生同士が何気ない日々の雑談や情報交換の機会が持ちにくいこと。（ゼミ授業の後には昼休みを利用して――教員の手もと音声を切って――学生の雑談タイムを提供している。）
- テストなどで学生が自分の力で問題を解いているのかどうかが不明な点は、学生の把握が難しいならではの問題点です。
- 双方向以外では、すぐに訂正したり、雑談ができない。
- 教員としては、時間がかかりすぎるのが最大のデメリットです。毎日、授業準備に追われていました。学生は、生活にメリハリを失っているようです。
- 教員の立場からは，学生の顔が見えず（あるいは見えても表情まではなかなかわからず），講義に対する学生の受け止め方がよくわからない．ややもすると一方的な講義になりがちである．
- 学生を集中させることができない
- 課題等について、学生からの問合せが多いため対応に時間がとられる。 学生によれば、授業の課題（レポート等）が多く、授業によっては当日締切のものもあるため労力が多く大変とのことです。
- 授業づくりから評価採点まで、教員はパソコン画面と向き合う時間が多く、疲労感が大きい。
- 学生が質問しづらい。
- ライブ形式の講義ができないため、学生の雰囲気や反応が掴みにくい。
- 学生の反応が分かりにくい。
- 学生の反応の把握の難しさ
- 学生同士の双方向の活動の確保が難しい（学生の受講環境によって Zoom 等ができない場合）
- 同時双方向型であっても全体の雰囲気がつかみにくいこと
- zoom などによるライブの双方向授業を行わない限り、学生の反応・理解度がわかりにくい。そのため進度や課題の量が適切なのかもわかりにくい。
- 通信環境とフィードバックの難しさ、準備が大変
- 受講生へのアンケートのなかで、オンライン授業は対面授業に比べて集中しにくい、(板書などによる間が少なく)追いついていくのが大変、という意見があった。
- いつでも、どこからでも授業に参加できることによるすぐに取りかからない子がいる。掲示資料の使い方としてこちらが指示してもそのような使い方をしてもらえない。配付資料は結局ダウンロードせず、掲示期間が終わった後に見られないと行ってくるなど。
- 多大な準備時間と、人に会わないストレスでまいった

2．労働環境について

（1）オンライン授業の準備にあたってどのような問題がありましたか（複数回答可）。41 件の回答

ア）対面の授業より授業準備や課題採点に時間がかかる	39
イ）なかなかコンスタントに授業内容を manaba 上に挙げるのが難しい	7
ウ）DB ポータルや manaba の利用方法について大学全体での指導がなかったこと	16
エ）授業準備に追われて体調を壊した	15
オ）教員間での情報共有ができず、どのような工夫をしたらよいのか分からなかった	11
カ）その他（具体的に何かあればお書きください）	7

その他の記述　10 件の回答

- 大学執行部は各教員に任せるという、一見主体性を重んじた態度を取りながら、実は大学として授業運営の責任を取らないといった態度であったと思います。これはあまりに無責任ではないでしょうか。また日頃 manaba や DB ポータルをお使いになられない先生方への対応を個人的にやりましたが、それ自体は嫌ではなかったものの、本来は大学が責任をもって対応すべきことだと思います。
- サポート体制の欠如
- 特に、ゼミの学生たちが manaba の課題地獄で複数人病み始めている。特に、3 年生が相当に参ってしまっており、対面授業に戻してほしいと訴えられた。とにかくも、1 カ月間くらい、対面を行えば、また雰囲気が変わってくると思うので、その後は、ZOOM 型に変更していきたいと思っている。また、自分自身の弱さでもあるが、病んでいる学生の対応を日々行っていると、消耗が激しく、不眠症的な症状が自分に出ており、これじゃあ、学生と変わらないじゃないかと思ってしまう。が、夏休みも注文原稿の執筆と学内業務に追われて、ほとんど休みがとれないまま、また後期の授業準備に入ることになるかと思うと、憂鬱である。
- 特に冒頭は個々人に遠隔授業に関連した一切のことを任せられ、フォローもなく酷い状況であった。授業はできても遠隔スキルなどは全くなかったため、学生も不利益を被ったと思う。もっと大学として機動力をもって遠隔授業実施へのバックアップができなかったのかと今でも思います。
- 動画ファイルなどのアップに関して制約が多い。
- システムに慣れるのに時間がかかり同僚や受講生に迷惑をかけた。
- コンスタントに manaba に挙げるようにという指示でしたのでやり遂げましたが、すべての課題を作成しおわるまで、ストレスでした。非常勤の方のマナバなどに関する問い合わせにも対応した。
- 講師内容を絞り込むことなり、より幅広く講義ができなかった。
- 作業が深夜まで及び、睡眠時間が減った。
- オンライン授業に関する技術的な研修会が必要であった。

（2）在宅勤務で良かったことがあれば、お答えください（複数回答可）41 件の回答

ア）家族との時間が増えた	16
イ）通勤時間が減った	37
ウ）他の教職員や学生たちからの邪魔が入らず仕事が進む	9
エ）Zoom 会議によって時間の効率化が図られた	25
オ）人間関係の煩わしさから解放された	9
カ）その他（具体的に何かあればお書きください）	6

その他の記述　7 件の回答

- 課題について、時間をかけて評価することが出来た
- 自分のペースで仕事を進められる。
- とにかく、様々な人間間の接触も減り良いことが沢山ある。　大学の教員は専門性の高い人材の集まりなあので、ある意味学科のため、そして自分のために高め合える人との接触を選べた。普段はいろんな意味で関わりが多いので、色々と疲れていた…
- 在宅勤務は一切していません（頭のスイッチが入らない、肥るのが一番いや）
- 会議や口頭でのやりとりが最小限度化され、環境が極めて静穏になった。加えて、思考する時間が増大したため、精神活動を促進する。思わず、予想外に研究が進む。
- ズーム会議のため部屋が片付いた。　・通勤による感染リスクが減らせた

（3）在宅勤務について何か問題があった場合はお答えください（複数回答可）40 件の回答

ア）家事や育児等の役割が入り込んできて、仕事や会議に集中できない	9
イ）１人で仕事をする部屋の環境が整っていないため、ストレスが増えた	10
ウ）運動不足等で体調を壊した	14
エ）在宅勤務のための整備等で費用が個人的にかかってしまった	20
オ）際限なく仕事をすることになり、過重労働になった	28
カ）その他（具体的に何かあればお書きください）	7

その他の記述　12 件の回答

- 今回、一時金も含めて昨年通りになったとお聞きしていますが、本来であれば、数倍過重になった労働に対して、賃上げを行うべきです。組合にはもっと頑張ってほしいと思います。そしてせめて執行部の先生方、頂いている手当を返上して、大変な思いをされている教員たちに少しでも再配分しようというお気持ちにならないでしょうか…　それからこれは伝え聞いた話ですが、ある教員が体調を崩され、その結果、学生たちへの授業のアップロードもされなくなり、連絡が途絶えたことに対し、学生たち等から大学に問い合わせがあったのに、事務室をはじめ、対応が非常に遅れたと仄聞しております。もしそうであるとしたら、今の大学は学生たちが円滑に授業を受けるために便宜すら図っていないのではないでしょうか。そしてオンライン授業を行う側・受ける側、どちらに対しても大学は目配りをしー時折、消息を確かめる電話を入れるなどー、何かあった時にはすぐに動く体制であるべきです。今の大学は果たして学生と教職員の安全を本当に考えているのか、気がかりです。
- 体調を壊すまではいっていないが、運動不足ではある。
- お陰様で体重が５～6 ㎏痩せました！！
- 事務方の一斉休業は甚だ問題と思います。今年のような非常事態においては交替で休むなどの対応をとり、学生への対応、また、教員との調整ができるような環境を整えてもらいたい。
- 同僚や学生たちと会えないのは、やはり辛い(!!)
- 資料が手元になくて、できることが限られる。
- ↑仮にやっていたらの話です　子どもがオンライン授業を受けていて場所がない
- 学生の対応目的もあり、通信ソフトの稼働時間が増えた。しかし、東京と大幅時差のある地域から、私が就寝中に call してくる事案が数回発生した。（もちろん悪意なく、単純に間違えて。）
- 後期にマンションの大規模修繕が入っており、騒音等の影響が不安です。
- 慢性疲労を抱えた気がしてなりません。
- 集合住宅のため、窓際で大きな声での講義ができなかった。
- 複雑な調整はメール・電話よりも対面もしくはオンライン会議の方が効率が良いが、会議設定の手間が大変だった。

（4）後期授業に向けて改善してほしいと思うこと等がありましたら、ご自由にお書きください。

34 件の回答

- 学内 wifi 環境の整備、通学バスの感染防止対策
- 学生さんたちは、多くの教員がオンデマンドで、Zoom で双方向の授業をやろうとしないことに大変不満を持っています。中には忙しいから質問を受け付けないという教員さえいたと聞いています。したがって大学として、必ず 1 度は Zoom 等で学生と生のコミュニケーションを取るように、各教員に指示してほしいです。学生たちは声を聴いてもらえない疎外感を抱いています。これは退学率を上げることになるでしょう。また manaba を教員間で共有して見られるようにしたり、あるいは事務方でも見られるように何とかならないでしょうか。実際に皆がどのようなことをやっているのか共有できて良いと思います。それから最後に、今回、組合がアンケートを取ってくれて本当に良かったと思います。有難うございます。何処に苦情等を持って行って良いのか分からなかったからです。
  しかし本来であれば、学園・大学執行部こそがいち早く教育条件や労働状況に関する調査を行うべきだったと思います。実態を把握しないで、その時その時の雰囲気で、朝令暮改的に方針を打ち出されてはたまったものではありません。大学執行部の方たちはコマ減で、授業を殆どされていない方が多いとお聞きしていますから、現場の大変さが判らないのではないでしょうか。現場を知らない執行部では大学の将来が心配でなりません。
- とにかく、大学の決定が遅い。
- 大学はさらに学生の不満を解消する努力が必要と感じた。
- 非常勤講師への財政的援助を少しでも実行してください。

- 遠隔授業用の新たな授業準備が必要であるうえに、対面授業は録画してアップしろ、または、対面の場合はオンライン用の資料も同時にアップしろ、というが、それは、普通に考えれば、仕事の量が倍になることを意味する。なぜ教員だけ給料が据え置きで 2 倍の仕事量を押し付けられるのか。もちろん、学生のためにやらなければならないことはわかっているが、給与面で不満がある。
- 新型コロナウイルス拡大は、大学の責任ではないものの、このような状況になっているのは、どの大学においても同様であると思います。その状況下で、何が一番大切か？についての答えは 1 つだけだと思います。「どんな状況下であっても、大東文化大学に入学し、この学び舎で学ぼうとしている学生の誰一人としても、取り残してはいけない」ということだと思います。私達教員は、そのために努力をするのは当たり前であるし、この度もはっきり言って、学生のことを考えての授業準備は、今までの何倍も時間が掛かりました。しかしながら、それは当たり前です。逆にこの年齢になって、自身の知識、資料、教授法全てがブラッシュアップされて新鮮でもありました。私個人ということではなく、大学・学園全体に対しての情報発信や、危機管理に対する備えなど（この場に及んで、新型コロナウイルス感染下における大学運営指針が明確に示されていないのはどうしてでしょうか？）を完璧にして戴きたいです。統一した基準のもと教職員・学生・ステークフォルダーが行動することができなければ、大東文化大学号の舵は定まらず、何時までたっても大海原へ向かって航海できないのではないでしょうか。「with コロナ」を実現したいならばしたいなりの、準備を学園当局にお願いしたいと思います。　＊いち早くアンケートの実施ありがとうございました。本来であれば、学園が何回かのアンケートを実施していて当然でしょう。
- 後期は対面でしができない授業は大学内での対面授業になるので、その前後の授業になってしまうと、Zoom での授業をやりにくい。実際、大学側からは manaba オンデマンドで、と求められている。ただ、オンデマンドだけでは指導にならないので、Zoom を要所で入れたいのだが、どうするか、今から悩んでいる。　後期ということではなく、来年度も遠隔になるかもしれないという前提での大学の方針に関してだが、入学に際しては、PC の購入と自宅の Wi-Fi 整備は義務付けてほしい。遠隔でモバイル通信のみでやるなんていうのは、不可能である。PC と Wi-Fi があれば、Zoom で講義ができる。単発の回線問題で受講できなかった学生には、パワーポイントの講義部分の録画を Google Drive にあげて、あとでアクセスしてもらったらよい。
- 科目責任者になっている外部講師の先生には、大学から manaba の使用方法を教えていただきたいです。　補助者の立場からご説明するのは難しいです。
- 前期苦労したので、だいぶ慣れてきました。個人的には 5 月ごろにオンライン授業の基本的な方法論を全学 FD として実施してほしかったです。また、さまざまな意思決定が他大学に比べ遅すぎたことと、コールセンターへ相談した学生から、たらいまわしにされたうえ、適切な回答が得られなかったと話を聞きました。今後のさらなる感染拡大に備えたマネジメントを切に求めます。引き続きよろしくお願い致します。ありがとうございました。
- 大学の Wi-Fi 環境を何とかしてほしい。
- 遠隔授業を展開するのは仕方ないが、大学での通信環境などが整っていないのでより一層の整備を勧めてもらいたい。　自宅での通信環境を整えるにあたって個人の責任のような取り扱いではなく、大学の支持による在宅勤務なので補助等を充実させてもらいたい。
- 特にありません。　いつも組合の方が教員のためにご尽力頂き、感謝しております。　引き続き、どうぞよろしくお願い致します。
- 全員、頑張っているので世の中の状況が好転することを祈る他ない。
- 東松山キャンパス内の Wi-Fi の強化。　密をさけるためにスクールバスの増便。
- すみやかに対面授業の再開を望む。
- 演習やゼミは（オンデマンド併用の）対面にしてほしい
- 教員・学生ともにきちんと授業に取り組めるようにハードの面をバックアップしてほしい。専任教員には遠隔授業を行う期間であれば，機材購入のために一般研究費の使用を認めるとか，非常勤の先生には PC やウェブカメラなど必要な機材を随時貸し出す。また学生に対しても環境の変化があると思うので，随時 PC の貸し出しなどに応じるきめ細かいケアが必要だと思います。
- 教員のなかには、高齢者や非常勤で多くの授業を掛け持ちにしているなど、オンライン化に対応しにくい事情を持つ先生もおられます。動画作成などへの圧力が過度に強まっているように感じられ、気になっております。
- 現在のところ、特にありません。
- オンライン授業は問題がありますが、それでも、最重要なのは学生と教員の生命だと考えます。
  例年以上にドロップアウトした学生が多いとは思いませんが、PC 環境（特に印刷）を契機としてやる気を失ったのかと心配です。また、レポートでの成績評価では、ある程度の不正行為（コピペ、ポイントのズレによってわかります）を看過せざるを得ません。期末試験だけは、会場を確保して受験方式に変えられることを望んでいます。

- 学生から課題の量が多すぎて大変という声があがっている．大学生なので，本来はある程度の課題があるのはむしろ自然とも考えるが，状況によっては課題が集中し，なかなかさばききれないというケースもあるようである．とはいえ，課題の量を教員間で調整するのも現実的ではなく，またそうすべきとも必ずしも思わないが，学生からのクレームを受ける何らかの窓口はあってもよいのではないか？
- 対面でやらせてほしい。
- 学生の利便性を高めるため、出席確認を respon で統一するなど、何らかの共通の指針を提示して欲しい。学生の満足度を考えると原則として双方向授業にするのもよいとは思います。 授業の独立性から考えると難しいとは思いますが。
- 今でも精一杯です。よりよい授業をと、あおり立てないで欲しい。
- 課題が多すぎる授業の改善。課題だけ出して、説明のない授業の改善。
- 成績をつける時間に前期より余裕があればありがたい
- オンラインを基本としつつも、対面の機会を増やしてほしい。zoom ウェビナーを使えるようにしてほしい。
- 学生の通信環境の調査と補助(前期に引き続き)/教員は一方的な授業、課題過重にならないようにすべき
- オンライン授業に関して休講ができるのか、大学から教員向けに出された通知・案内などからはよく分からなかった。後期から、一部でも対面授業が再開されるならば、この分と合わせてオンライン授業の休講も掲示できるようにしてほしい。(新型コロナへの感染・入院をはじめ、やむを得ない事情で授業時限までに資料のアップロードが出来ない場合もあると思う。学期内の課題量を調整するなどすれば、休講分の埋め合わせもできると思う。)
- 例えば、今後、オンデマンド型が普通になった場合、複数教員でやっている授業など、ひとりの教員でも良いということになると思う。また、非常勤の先生方についても授業のやり方によっては必要なしということになると思う。教育、研究機関として事業の効率化を図る上ではオンデマンド型授業をコロナ後も模索していくのだろうと思うが、我々の職（生活費を稼ぐ場）として教員のあり方も変わってくるのか。先が見えないため不安に思うところも大きい。
- 対面、双方向、オンデマンドの 3 択ではなく、複数の方法を 1 つの講義で混ぜて使う方が学生の満足度は増す。オンデマンドのみへは学生の怒りがある。 教員もよりメリハリのある授業運営ができると思う。
- もう少し早めに大学としての方針を示して頂かないと、授業の準備が間に合わない。

本紙は大学組合webサイトhttp://www.boreas.dti.ne.jp/daito-un/ にも掲載しています。
本紙へのご投稿、ご意見、ご質問は daito-un@boreas.dti.ne.jp にお寄せください。